94
1
49

準貴

宗家記録

諸方御内用往復書状扣

文政四年
同六年

九

案家記錄

諸示御用往來

康熙拾柒年

玖月 日

第九冊

清閑用意

之成十二七八之下本箱
本朝之
源家勤
國之
源君元
源国之事
行基菩

成祖信使勅
節之
如
時
書面云
事在前
合
如
事也

儀先
箱
源君元
源国之事
源消礼
源家
修之
事達
源書面云
仮
源
源不調之
源云
源不調之
仮
源
源書面云
仮
源
源
源

下中小学校ニ於テ左ノ会合ヲ開ク
勝手ニ会合ヲ開キ又ハ会合ニ出席セザル者ハ罰金弐拾銭ヲ科ス
出席ヲ為サント欲スル者ハ予メ公用人ニ申述ヘ其ノ指揮ヲ受ケ
而シテ申述ヲ為サヾル者ハ欠席ト看做ス
会合ニ臨ミ公用人ノ指揮ヲ受ケ会場ノ整理ニ従事スヘシ
先決議案ノ外ニ提出スルヲ得ス

この及法律施行ノ後
罰金ハ之ヲ徴収ス
この及法律施行ノ後
罰金ハ之ヲ徴収ス
この及法律施行ノ後
罰金ハ之ヲ徴収ス

御用留

乙

二月十四日

平田宗蔵殿

古川将監殿

田中采女殿

長江左衛

田中采女殿

平田常之丞殿

古川将監殿

本状披見候、然ば明日お逢申度候、

以上

二月廿二日

田中采女

古川将監

民江先生
蜀去後

平田

清閑用著

次年ニ修営ヲ加ヘ
永遠ヲ期セント欲ス
茲ニ又タ
治定ヲ蕃ヲ
評決ヲ経
上ヲ以テ上ル
聞ニ及ヒ

以上ノ
永年修繕ヲ
要スル
ヲ以テ
慶長
十二月廿日

田沼玄蕃
氏江玄蔵

平田主殿
古川將監
田中靱負
平田主殿
古川將監
乃ち連署書名
三月十二日
田中靱負

氏江義陸
田淵春重
平田主殿
古川將監
平田主殿

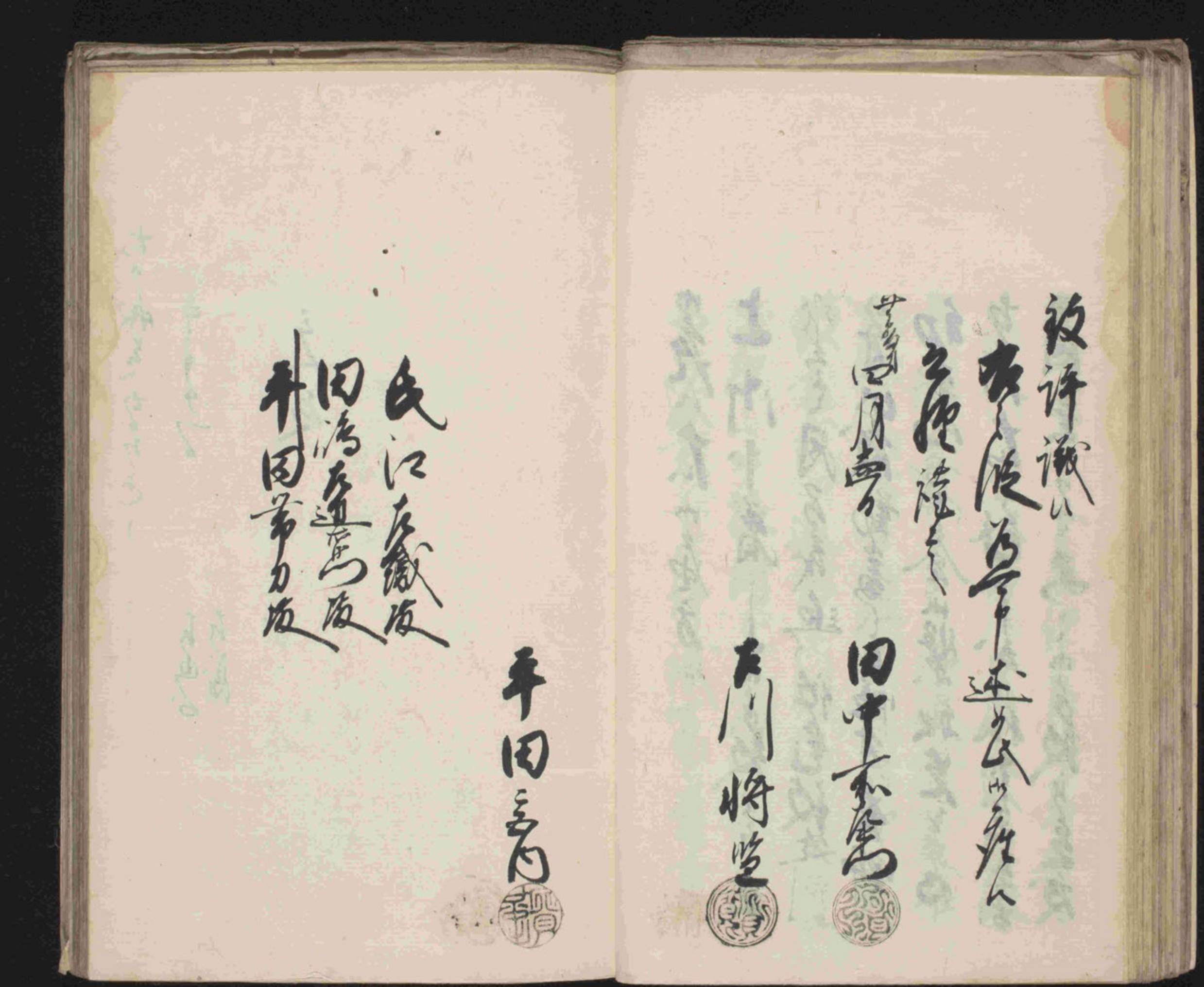
右訴訟事頼及
公義ニ法廷ニ
前ニ於テ

當之例之
如無於渡
候之為
此之室屬
當時之時
無極於室
員今之事

淨於意之
玉樹流様
淨私於節
淨家督相
候い淨家
淨歸國い
一同之

仰上ル事
波濤之時節ニ依而ハ
又及延引
御系府
毛氏
又御屆之方可然ハ
其更ニ御節ニ重而

西尾御渡生ニ御用子様
御親類ニ而先般
御届之方先般又及
事ニ依而ハ
御届ニ及ハ
御渡海ニ決而
御指支ニ御座候ハ
乍恐書ニ而
御届申上候様ニ
奉存候以上



帝国図書館蔵書

別紙之通
御座候間
御心得可被
仰入候
以上

沖繩縣令官房企畫課

沖繩縣廳舍新築ニ關スル件

沖繩縣廳舍ノ儀ハ從來不便ノ點尠カラス且ツ舊慣上ノ關係モ有之候ニ付テハ此際新ニ適當ノ地ヲ撰定シ新築ノ必要アリト認メラレ候ニ付テハ別紙ノ通リ沖繩縣知事ヨリ伺出候ニ付テハ此際

一

平田玄内殿
石川将監殿
田中平兵衛殿

右之状令到達候条
以後若し
心得違之輩有之ハ
可申越候
以上

十月廿三日

田中平兵衛

石川将監

平田玄内

氏江玄蕃殿
田淵左衛門殿
平田玄内殿

巳四月勅命

平田篤胤

古川将監

田中重高

右之通差出之

巳

六月九日

氏江友綱

田淵友真

平田篤胤

古川将監

田中重高

右之通差出之

巳

六月九日

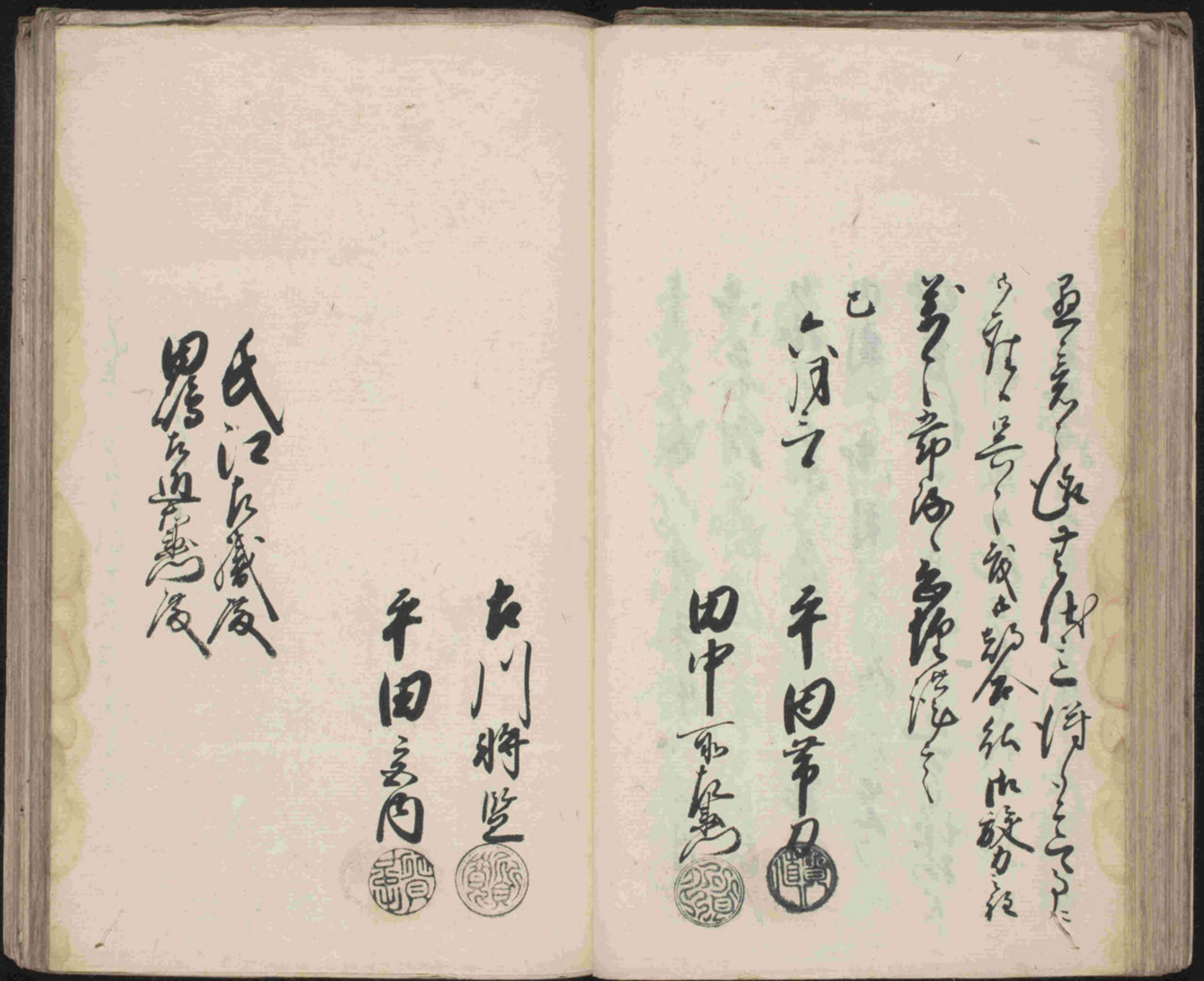
氏江友綱

田淵友真

平田篤胤

午田第四度

御用



御内用

乙

七月二日

氏江左衛尉

平田常吉

田中重蔵

古川将監

平田富門

一筆啓上仕候 訓令奉
去ル七日上京後初而 廣瀬典市殿迄 訓
對面仕
殿様へ御帰藩届書差出
御海列之儀 御免之段 我ら

御用留

以別紙之書付申渡者
也
浦賀奉行
帰國之儀
願之通速ニ帰國

平田第刀阪

右承知候事

八月廿三日　平田第刀

田中雲鷺

古川將監

民江

田清春阪

平田雲閑

御用留

九月廿日

平田善四郎殿
大川特派員殿
田中新兵衛殿
平田幸八郎殿

田淵幸雄
氏江九織

御用留



新民用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

氏江九織役

田鴨九織役

古川將監

平田喜内

一筆申上候先生上京をおくく而半而いを拙子
に左山半而いを拙子これを許而以下向之
男遠ことよの方ことく密ニ致御心上京候方
ニ而御座候事ニ而おこと事而浅草沙汰雲
半而ニ而沙汰ニ而ふとゝ申ことく高民大変
欲ニ迷ひことふニ而ことよの二方ことく而地ニ
ふらニ伝ニ而上ともく而しい神ニ而ニ而

申候上ニ而ふ
ニ長ニ而ニ
よの元吟味ニ
今般ニ而ニ
ニ而ニ而ニ
ニ而ニ而ニ
ニ而ニ而ニ
よニ而ニ而ニ
ニ而ニ而ニ
ニ而ニ而ニ

土月吉日

杉村 弥

三郎殿

左之尊書致拝見候

二月九日

田島左近様

古川将監様

氏江儀様

高瀬主殿

市内各所図書

田代伝次郎宅を訪ふ上村九ツ村柏口ノ村一村ニ
柚比村ニ宮浦西村塚ノ戸村酒井森村久屋村田代
内ニ住ふ男ノ遺体ニ注ぎよの方ニいらつ風ノ強く
松ノ内宮ノ下ニ出ル伝ニ吹ル如くニ
ト聞ニ及ぶ一切ニ取扱ひ不ル上ハ同係ニ引渡
ス事ニ及ぶ男女お集り焼方ニ取
ニ移りニ見物ニ参ル

一 宗旨之儀ニ付而ハ、

一 右之通ニ而ハ遠ニおゐて人命ニ係り候ニ付
於休ニ郎お而ハ無事ニ定り候ニ付改而判ニ不及候
一 葉書ニ而ハ届ニ不及候ニ付
右之通ニ而ハ届ニ不及候ニ付
一 届書ニ而ハ届ニ不及候ニ付
一 届書ニ而ハ届ニ不及候ニ付
一 届書

上ゟ申渡候ニ付、私仕度遣ニ而ハ不申候、
日夜ニ稽古ニ而、弁当ニ而ハ手間ニ成候ニ付、
姫を乗物ニ而ハ不申候ニ付、
お愛と申ス女ニ而、
右ニ一事ニ付、
吟味ニ而ハ無之候ニ付、
一右之訳ニ而、

女人花ニ而ハ無之候ニ付、
上ゟ境ニ而ハ無之候ニ付、
ニ而ハ無之候ニ付、
ニ而ハ無之候ニ付、
ニ而ハ無之候ニ付、
ニ而ハ無之候ニ付、
ニ而ハ無之候ニ付、

和漢より於ろ論處ハ
法とよミ仏伝仏風伝
おゝやけ之ことバとの
ことバ遣ろ吟味おゐて
いつとなく此吟味おろ
言語方之ゝろこと
仮名おゐて
仏ろこゝ
ろ

也。大六作ゟ前ニ方ゟ
着ゟ事ニ而ハ
一大ゟ也六作ゟ此ゟ
述ゟおゐゟ方ゟ
ゟゐ之語ゟ
ゟ

ゟ之ゟ作ゟ前ニ方ゟ
ゟ
ゟ

九月

杉村司

御内覧奉願候

一筆啓上仕候私儀此度定坂
之御介之為
思召御国出之旨
忝奉存候扨
出府仕候ニ付
御用筋
御序之節
御届申上候
向ニ而

一

一金弐拾両 私共坂下ニ而波除
始メ申候ニ付 右之内ニ而
委細ニ吟味之上 九蔵様江
差上申候 尤新規之
中ニ而 追而相談之上
波除百枚 晒
壱ヶ所ニ而
先ハ弐ヶ所ニ
取合拾枚
両田地
御自由ニ

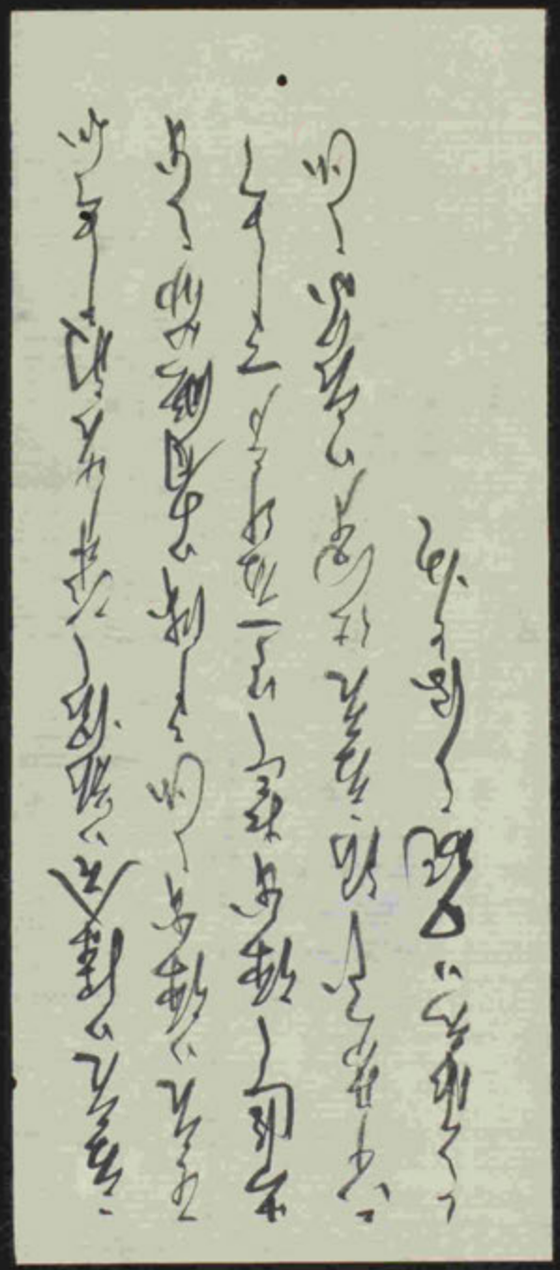
一

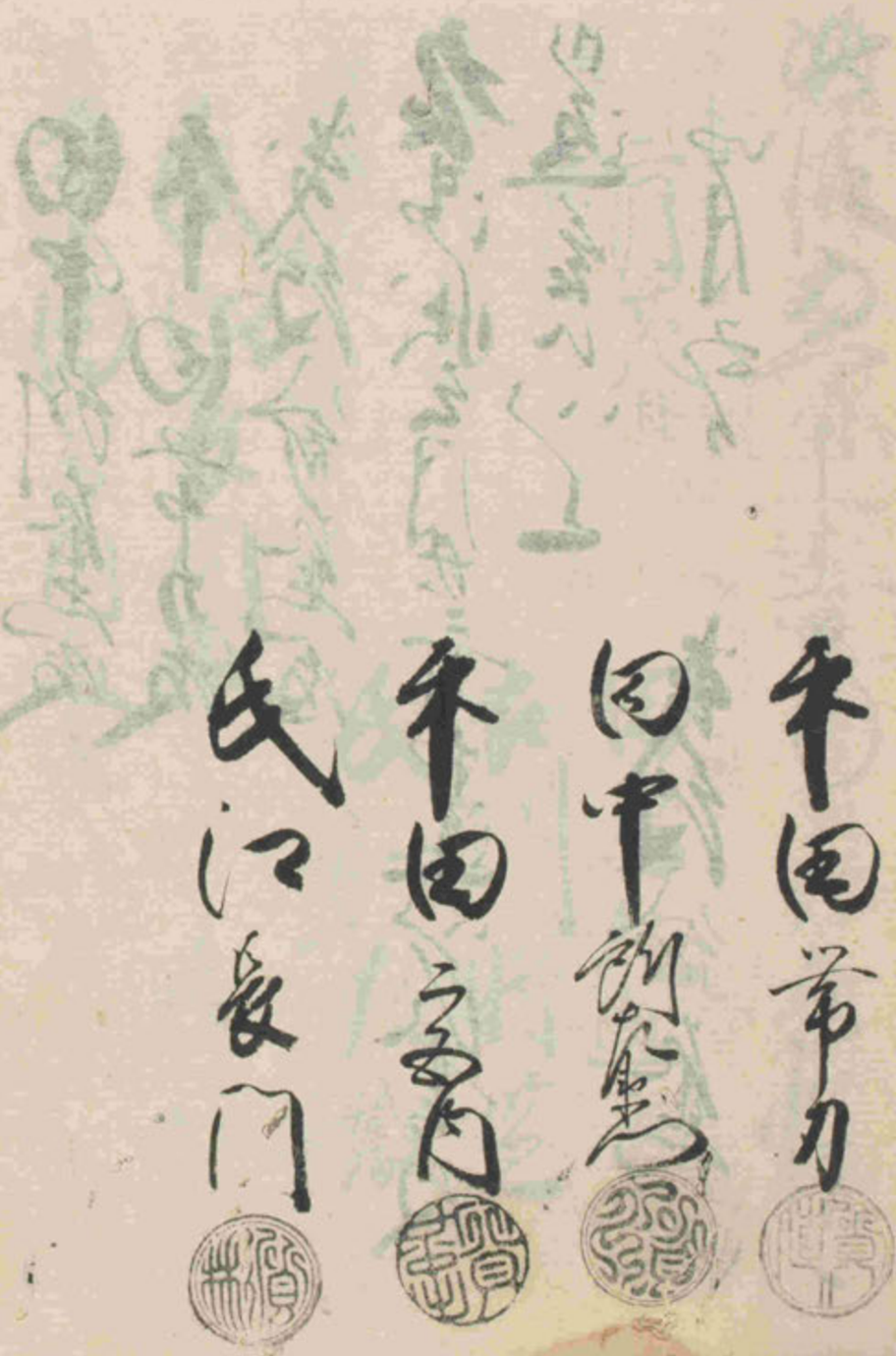
三月十二日

氏江九郎兵衛様
古川将監様
田島左近様

高木村に古義二ヶ所あり一義は
法度掛義今一義は
元おふれ中に有し
無尽ゟ之金
高を古き法
古文利きゝ仮
此度御ふれ之
義御仕法

淨土用





汴河用水

依治勝

右之尊書拝誦仕候

貴意之旨

依治勝

氏江九郎様

古川将監様

田鴻九郎様